

< 認知症対応型共同生活介護用

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677500128
法人名	社会福祉法人 陵幸会
事業所名	グループホーム 陵幸会こころ
訪問調査日	平成 20 年 10 月 31 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4677500128
法人名	社会福祉法人 陵幸会
事業所名	グループホーム 陵幸園 ころ
所在地	鹿児島県鹿屋市吾平町麓3811-2 (電話) 0994-58-5055

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年10月31日 評価確定日 平成20年11月24日

【情報提供票より】(20年10月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 7日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 6000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	280 円
	夕食	300 円	おやつ	- 円
		または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(10月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.3 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎内科 小浜歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム陵幸園ころは、周辺に畑や山があり、ホームの敷地内の菜園では、利用者と一緒に野菜を作り、収穫を楽しんでいる。ドライブ・カラオケ・温泉・外食と外出する機会も多く、利用者は地域の方々とのふれあいも楽しんでいる。同一法人の介護老人福祉施設と隣接し、医療処置の必要な人には、介護老人福祉施設の看護師に処置してもらい、生活の支援の継続が出来て、家族は安心している。過去、1年9ヶ月、職員の離職も無く、利用者との馴染みの関係ができ、信頼関係も深まっているグループホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価の職員を育てる取り組みについては、改善経過の記録は無いが、研修計画を作り、研修の充実が図られている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員会議で話し合い、各ユニットで最終的にまとめ上げて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員会長・副会長、包括支援センター職員が市担当者、地域町内会長、家族代表の参加のもとに、2ヶ月毎に開催している。事業所の経過報告をし、地域の情報を参加者より頂いている。会議録は玄関に置き、開示している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会を年2回開催して家族からの意見をもらう機会を作っている。面会時・電話等で家族からの要望があった時は、申し継ぎ帳・申し送りノートで職員は共有し、職員会議で話し合っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所として町内会に加入していないが、地元の職員から情報をもらい、地域の行事に参加している。中学校の体験学習、踊り・演奏のボランティアの受け入れを数多くしている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族との絆・心のつながりを大切にし、自立支援を目的とする、平成16年の開設時からの理念である。地域密着型サービスとしての役割を旨とした内容が欲しい。		地域密着型サービスとしての事業所独自の基本理念を作り上げることが望みます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内(玄関・ホール・トイレ)等に、掲示して、生活のケアの中で意識して、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として町内会に加入していないが、地元の職員から情報をもらい、地域の行事に参加している。中学校の体験学習、踊り・演奏のボランティアの受け入れを数多くしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員会議で話し合い、各ユニットで最終的にまとめ上げて取り組んでいる。昨年の外部評価の職員を育てる取り組みについては、改善経過の記録は無いが、研修計画を作り、研修の充実が図られている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員会長・副会長、包括支援センター職員が市担当者、地域町内会長、家族代表の参加のもと、2ヶ月毎に開催している。事業所の経過報告をし、地域の情報を参加者より頂いている。会議録は玄関に置き、開示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	成年後見制度の利用に当たって、市担当者とは何回も相談している。その経過は、記録している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所の行事での利用者の様子などを、毎月「こころ便り」で報告している。金銭出納帳は、家族会の時家族に報告し、サインをもらっている。急変時・病院受診後に随時電話で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催して家族からの意見をもらう機会を作っている。面会時・電話等で家族からの要望があった時は、申し継ぎ帳・申し送りノートで職員は共有し、職員会議で話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年9ヶ月離職は無い。職員が居心地よく働けるよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修・ホーム内での研修を合わせた年間計画が作られ、実施している。ヒヤリハット報告書に基づく勉強会をしている。外部研修後の報告は、職員会議で行い、共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3つのグループホーム間で、相互訪問・勉強会を通じて、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族の見学、自宅訪問をして、入所に至っている。利用者の今までの生活のリズムを変えないようにサービスを開始して、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、農作業・台所の仕事などを利用者と一緒に、得意分野を学び、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や行動の様子から、思いや意向の把握に努めている。困難な方は、家族からの情報を元に、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議で本人・家族・職員と話し合っている。利用者のその月の担当職員がケアプランに添ってモニタリングをして、計画担当者がそれを参考に作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員がモニタリングして、6ヶ月ごとに、介護計画を作成している。利用者の状態に変化が見られたら、随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療処置の必要な人には、法人内の介護老人福祉施設の看護師に処置してもらい、生活の支援の継続が出来る。家族の要望に応じて、病院受診の送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得の上で、協力病院がかかりつけ医になっている。入所前から受診していた脳神経外科など専門医へは、家族の希望の病院受診の支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応は、まだない。重度化に対応する指針は作られており、入居時に家族に説明している。急変時は、対応マニュアルで方針が統一している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員とは雇用契約時に、守秘義務の取り決めを行っている。記録物は、事務所に保管している。勉強会はなく、秘密保持の徹底が図られているとは、言いがたい。		プライバシーに関する業務マニュアルに添って、研修され、秘密保持の徹底を図ることを望みます。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望む、毎日の散歩・晩酌・朝寝など、利用者それぞれのペースを大切に、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業(下ごしらえ・調理・箸配り・おしぼり配り・下膳・テーブル拭き・トレイ拭き)など、利用者の力を発揮してもらっている。嗜好調査・メニュー会議など利用者の希望を取り入れた献立を作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を目標にしているが、毎日希望も可能である。時折、「湯遊ランド」に出かけ、温泉を楽しんでいる。入浴を拒む人には、声かけの工夫で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・掃除・台所仕事・農作業・梅干作り・味噌作りなど、生活歴や力を活かした役割の場面作りをしている。、ドライブ・カラオケ・交流会参加など楽しみごと気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	弁当を持って温泉へ出かけたり、ドライブ・外食・散歩・敷地内の畑での農作業等、事業所の中だけで過ごさない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の入り口は、二重になっており、外側は開けているが、内側は、ドアが閉まると自動ロックされる仕組みになっている。ホーム内からウッドデッキへ出て敷地内へは、自由に出入られるようになっている。		玄関の内側のドアが閉まると自動ロックされるのは、鍵をかけないケアとは言い難い。日中鍵をかけないで支援していく努力をする意識や姿勢を徹底させていくことを望みます。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、火災非難訓練を実施している。利用者の居室にヘルメットを備えてある。地震想定・夜間想定避難誘導訓練は、していない。非常食・飲料水の準備はない。		地震想定、火災の昼・夜想定、水害想定など、具体的な想定を取り入れた避難訓練を実施され、職員が自信をもって誘導できるよう望みます。また、備品の準備を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量・食事摂取量を記入して、把握している。利用者の状態に合わせて、刻み食・ミキサー食・とろみ食にしている。法人の栄養師に献立のチェックをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居間は、1フロアーになっている。ソファが置いてあり利用者がくつろいでいる。浴室・トイレは清潔に保たれ、洗面所・テーブルに季節の花が飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは備え付けであるが、自宅から仏壇・コタツ・小物などが持ち込まれ、利用者それぞれの居室空間が作られている。		